

圧迫性頸髄症の診断で頸椎椎弓形成術を受けたことのある 患者さんまたはご家族の方へ (臨床研究に対するご協力をお願い)

国立病院機構宇都宮病院 整形外科では、上記の手術をされた方の診療情報（カルテ情報）を使用して臨床研究を実施いたしております。本研究に該当する可能性のある方のご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また、ご協力いただけない場合であっても今後の治療に不利益を受けることはありません。

本研究への協力を望まれない患者さんおよび本研究の詳しい内容（実施計画書・関連資料等）について閲覧になりたい方は、下記の【問い合わせ先】までご連絡をお願いします。

【研究課題名】

圧迫性頸髄症に対する頸椎椎弓形成術における最近10年間の動向と再手術例の特徴について

【研究の背景と目的】

圧迫性頸髄症に対する手術法に関して、最近10年間の手術成績や安全性（術後合併症の頻度）を調査することを目的としています。圧迫性頸髄症の患者さんのカルテに記載されている情報や、手術記事を調査・検討することで、近年の手術の特徴や術後合併症の頻度（安全性）を明らかにしたいと考えています。

【対象となる方】

圧迫性頸髄症の診断で頸椎椎弓形成術を受けた患者さん

【使用する検体・診療情報】

使用する診療情報は以下のとおりです。

- ①臨床所見（患者背景）：年齢、性別、身長、体重、診断名、併存疾患・既往歴、喫煙・飲酒歴、内服歴
- ②画像所見：単純レントゲン、単純または造影CT、単純または造影MRI
- ③手術情報：手術時間、出血量、手術範囲、術中所見、周術期合併症
- ④再手術の関連因子：再手術に関連する因子を探索的に調査・検討する。
- ⑤アンケート結果：JOA score、JOACMEQ、PainDETECT、EuroQolによるADL・臨床症状評価
その他のアンケート調査

なお、収集したデータは、研究責任者のもと適切に保管・管理致します。

【研究期間と参加予定人数】

2008年1月1日～2019年12月31日までの間に頸椎椎弓形成術を受けた約70名が対象となります。

【個人情報の保護】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを特定出来る個人情報は削除し、収集されたデータは、個人が特定できないよう通し番号などで匿名化されたのち解析を行います。

また、使用したカルテ情報を廃棄する際も個人情報を削除して廃棄いたします。

【結果の公表】

この研究の最終的な結果は学会や学術雑誌で公表される予定ですが、その際も患者さんを特定できる個人情報は公表いたしません。

【研究責任者】

国立病院機構宇都宮病院 整形外科部長 茶藪 昌明

【問い合わせ先】

栃木県宇都宮市下岡本町 2160

国立病院機構宇都宮病院 整形外科部長 茶藪 昌明 電話番号：028-673-2111 平日 9:00～17:00